

# 外国人労働者不可欠な「戦力」

静岡県中部未来懇話会 平成30年度臨時社員総会



## 新年度事業計画案など承認

基調講演  
パネル討論  
労働力確保へ戦略、課題探る

一般社団法人・静岡県中部未来懇話会の平成30年度臨時社員総会が3月5日、静岡市葵区のホテルアソシア静岡で開かれた。正会員、特別会員、賛助会員合わせて約110人が出席し、2019年度事業計画案な

どを原案通り承認した。事業計画の柱となる年間調査研究テーマは「広がりを見せる外国人雇用を考えるー外国人労働者を『戦力』として位置づける」。政府の出入国管理法の改正に伴い、静岡県でも外国人の就労が見込まれるため、そうした外国人労働者を人手不足に悩む企業の戦力としてどう位置づけていくか、その可能性や戦略、課題などを探る。春（6月）と秋（10月）の2回シンポジウムを開き、基調講演とパネル討論を通じて討議する。議事では2019年度収支予算案も了承した。このほか、中部地域経営会議が取り組んでいる30年度研究

## 親睦交流会に懇談の輪

臨時社員総会、時局講演会の後、会員親睦交流会が開かれた。

多くの会員が参加し、和やかな雰囲気の中、静岡県や日本の政治、経済の見通しなどについて意見を交わした。



テーマ「労働力確保と人材育成」についても経過報告が行われた。総会の冒頭、当懇話会会長の大石剛静岡新聞社・静岡放送社長が挨拶に立ち、「法人改革で静岡政経研究会から中部未来懇話会になって4月で10年になる。これからも中部地域の活性化に向けて講演会やシンポジウムを開催して

いきたい」と述べた。

総会后、共同通信社論説委員長の橋詰邦弘氏による記念時局講演会「岐路に立つ日本政治の行方」2019年決戦を読む」が行われた。

（4〜5ページに講演抄録）

総会後は会員親睦交流会が開かれた。